

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871000473		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	芦屋ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県芦屋市松浜町13-18		
自己評価作成日	令和2年3月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に公園があり、提携している内科も近く、周辺環境が良いです。臨時の受診や定期的な受診には、ご家族への負担を考慮し、職員が付添うように努めています。経験のある看護師が長く勤めているため、医療機関との連携もとりやすいです。看護師に限らず、長く勤めているスタッフが多いことも魅力です。規模の大きな会社が運営している為、介護に関する情報を全国から得ることができ、また災害時や緊急時には、他の施設からの協力を得ることができます。職員の研修も各地で行われており、積極的に参加するようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地に立地しており、近くには海浜公園・テニスコート等があり、自然に恵まれた環境にある。外食・買い物・ボランティアの受け入れ・地域の福祉避難所として市と協定締結等で、地域交流・地域貢献を継続している。法人の献立に沿って食材発注・手作り調理を行い、利用者の希望・季節感・行事食を取り入れた食事を提供し、利用者も調理や後片付けに参加している。事業所内での行事、家事参加・作品制作等、日常生活の中で楽しみや役割を持ち、心身の機能の維持向上が図れるように支援している。看護師を配置し、医療機関・訪問看護ステーション等と連携を密に取り、希望があれば看取り介護にも対応しており医療的な支援が充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「世界一の幸せ創造企業を目指す」を実践する為、一人一人の幸せについて考えています。	事業所理念に域密着型サービスの意義役割を明文化している。新入職者研修時に説明し、全体会議での書面配布・法人冊子の配布、掲示等で法人理念の理解と共有を図っている。事業所理念は、掲示により職員の共有を図っている。	事業所の理念について、共有と理解を図る工夫が望めます。また、事業所理念の実践状況を振り返る機会を定期的に設ける等、事業所理念の実践に向けた具体的な取り組みが望めます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民や敬老会の方々をはじめ、地域の方からお声をかけて頂く機会は増えつつあります。	外食・買い物に出かけたり、事業所での納涼祭やクリスマス会への地域住民の参加、ボランティアやトライやるウィークの受け入れ等、地域交流に取り組んでいる。利用者と一緒に近隣の清掃活動に参加したり、敬老会お祝いのおすそ分けを行う等、日常的な地域との付き合いを継続している。市と福祉避難所として協定を結び、ハザードマップにも掲載され、地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時の福祉避難所として、事業所を利用して頂きます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度のペースで開催を呼びかけ、自治会長・民生委員・行政・家族等に参加して頂いています。近況や以前のご提言に対する進捗の報告、新たなご提言を頂いています。	利用者・家族代表、市職員、民生委員、自治会長、権利擁護センター相談員(知見者)等を構成メンバーとしている。2019年5・7・9・11月、2020年1月の5回開催し、2020年3月は開催を休止している。会議開催時は、入退院等利用者状況・職員の状況、行事・研修等の報告を行い、前回会議での提案等に対する進捗を報告し、議事録を作成している。会議休止時は、開催時と同じ書式で議事録を作成し、市役所高齢福祉課のみに郵送している。	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録は全構成メンバーに郵送することが望めます。 ・議事録に返信用紙等を同封し、構成メンバーからの意見や情報を収集して書面会議とし、議事録で共有して運営推進会議をサービスの向上に活かすよう取り組んではどうか。 ・個人情報に配慮の上、議事録の公開が望めます

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>グループホームの空き情報と利用者状況を報告しています。また、運営推進会議にも毎月参加して頂いています。</p>	<p>運営推進会議への市職員の参加を通じて連携を図っている。公的な支援を必要とする人への対応を、ケースワーカーと連携を図りながら、担当部署と協力関係を築いている。相談や質問等があれば、随時、市の担当窓口から回答や助言を受け、適切な運営に取り組んでいる。災害時の福祉避難所としての連携も継続している。市から派遣される権利擁護センター相談員の受け入れ、グループホーム連絡会への参加を通じて連携を図っている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員を設置しており、また、職員には研修を通じて理解を深めています。「身体拘束等の適正化のための指針」を定め、いつでも閲覧できる状態にあります。</p>	<p>「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。2ヶ月に1回、「身体拘束適正化、虐待防止検討委員会」を開催し、身体拘束事例や不適切ケアの有無等の確認を行っている。委員会の内容は、議事録の回覧により職員に周知を図っている。入職時及び、年間研修計画に沿って、年3回、本社研修資料・虐待不適切ケアチェックリスト等を用いて、身体拘束・虐待防止研修を全体会議の中で実施している。受講者に研修報告書の作成を促し、研修資料は全体会議議事録に添付し、参加できなかった職員は資料配布・議事録の回覧により周知を図っている。玄関は暗証番号による操作が必要であるが、希望があれば職員が付き添って外出し、閉塞感を感じないよう支援している。</p>	<p>研修の実施状況が明確になるよう、研修関係資料の整理等、ファイリングの工夫が望まれます。</p>

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を設置しており、虐待が出ない様に話し合い、毎月の全体会議にて注意喚起しています。	高齢者虐待防止についても、上記身体拘束適正化と同様に、研修・委員会活動を通して意識向上を図っている。身体的虐待だけでなく、心理的虐待についての理解を共有できるよう、管理者層からラウンド時等に助言や注意喚起し、不適切ケアの未然防止に取り組んでいる。管理者層は日ごろから相談しやすい関係づくりに努め、相談対応や面談の機会を設け、また、法人としても、相談窓口「コンプライアンス推進部」を設置し、職員のストレスや不安等が利用者へのケアに影響しないよう取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、成年後見制度についての理解を深めています。	成年後見制度を利用している利用者があり、支援内容を例に挙げて、権利擁護に関する制度について理解を深めるよう努めている。後見人への利用者状況の報告や金銭管理書類の提供等、事業所として制度利用を支援している。今後も制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、センター長が相談窓口となり対応することとしている。	全職員が成年後見制度等、権利擁護に関する制度について、学ぶ機会を設けることが望まれます。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約時に重要事項説明書等を使い、費用やリスクについて説明し、時間をかけて質問を受け応えし、納得した形での入居を心掛けております。入居後も質問は随時受け付けております。	見学時に、パンフレットを基にサービス内容を説明している。契約時にはセンター長・管理者が、重要事項説明書を主にして、契約書・指針・同意書等について説明し、文書で同意を得ている。利用料、重度化・看取り対応については特に詳しく説明し、理解と納得を得られるよう努めている。契約内容改定時には、電話で説明の上、変更内容を説明した文書を家族に郵送し、書面で同意を得ている。入居後も質問を随時受け付け、不安の解消に努めている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を頂いたり、家族の来訪時に要望などがあれば聞いて、そのニーズに応えられるように取り組んでいます。また運営推進会議のお知らせに、参加の可否と共に意見を記入できる欄を設け意見を募っています。	家族の面会時に近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。事業所の行事で利用者・家族と食事を共にしながら、意見・要望等が出やすい関係づくりに努めている。法人として家族アンケートを実施し、家族の意見を把握する機会を設けている。利用者・家族の運営推進会議への参加、また、権利擁護センター相談員の受け入れにより、外部者へ意見等を表せる機会を設けている。職員名札の採り入れ等、家族からの意見・提案を運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・リーダー会議にて話を聞く様にしており、意見を反映させています。また随時の面談・話し合いで意見を聞いています。	全体会議を開催し、センター長から事業所全体の共有事項の報告や、業務・運営について検討を行っている。リーダー会議では、リーダー間の情報共有・各ユニットの課題等を検討している。ユニット会議では、主として利用者個々のケアについての検討が行われている。月1回開催する上記各種会議を通じて、職員の意見・提案が運営・業務に反映できるよう取り組んでいる。会議録はそれぞれ各ユニットで周知を図っている。日々の職員の意見や提案は、申し送りノートで共有している。管理者が、年2回個人面談を行い、また、随時にも個別に意見を聴く機会を設けている。法人としても、相談・改善提案できる部署を設置し、掲示で周知を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課・契約更改制度を使って、面談等を行い、話を聞いて、改善できるところは改善するように取り組んでいます。また、随時面談を行なっています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター外の研修にも時間を確保し、できる限り参加を促しています。職員の資格取得にも、補助供与をはじめとして会社・施設として後押ししています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中での交流や研修の機会があれば、参加するように促しています。社内ではGH協議会、社外とはGH連絡会に参加して意見交換を行なっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	はじめのアセスメントでしっかりと情報収集をして、本人の困っている事・家族の困っていること等を掴み、サービス提供しています。入居当初は、ご本人の話を伺う時間を十分確保するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応の重要性を理解し、入居前に情報収集しております。入居後も、ご相談は随時受け付け、入居当初から、代表者をはじめ職員も御家族と連絡を密にとるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで知り得たニーズを満たすことを第一とし、それに加えて通院の付き添いや、訪問マッサージの提案等、介護計画に記載のないサービスの提供もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は食事を共にし、会話をする時間が十分とれるようにしています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、家族様には日々の状態報告を行い、情報を共有しお互いに支え合えるように取り組んでいます。事業所でカバーしきれないところは、家族様にもご協力を頂いています。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	機会は限られていますが、行ける範囲で外出しています。来客の方にも、いつでもおいで頂けるようお声をかけています。	馴染みの人や場所についての情報があれば、「実態調査表」(面談時把握)で共有し、関係が継続できるよう努めている。家族・友人等の来訪時には居室・相談室等を提供し、また、自宅周辺への散歩や馴染みの喫茶店への個別外出支援等、馴染みの関係継続を支援している。年賀状等手紙のやり取りの支援にも努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	周りの利用者同士で交流が持てるように、間に職員が入り、会話が進むように支援しています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、近隣に住んでおられる方には、近況を聞いたり、何か困ったことがあればご相談して頂く様に声を掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いにより添えるように、普段より関わりを増やし、ニーズの把握に努めています。	入居前のサービス事業者からの情報や入居時の「実態調査表」、入居後に把握した情報を記録する「介護支援経過記録」等をもとに、利用者個々の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族からの情報を参考にしたり、表情や反応等から汲みとる等、個別に方法を工夫し把握に努めている。把握した思いや意向は、ユニット会議で共有し、支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・家族来訪時に聞き取りを行い、少しでも多くの情報収集に努めています。普段の会話からも、ご本人の来歴を聞き取るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月おきにモニタリングを行い、状態把握に努めています。毎日の御様子も、職員間で共有できるようにノートで連絡を取り合っています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、現状把握と共に情報共有し、介護計画を作成しています。また、他職種・家族にも聞き取りを行い作成しています。	実態調査表、アセスメント総括表を基に暫定計画を作成している。その後1～2ヶ月間の状況を踏まえ、暫定後の介護計画を作成している。「モニタリング表」に、介護計画のサービス内容ごとに実施状況を毎日記録し、計画内容の周知を図っている。生活の様子は、介護記録に記録している。毎月末に、「モニタリング表」でサービス内容ごとに達成度を確認している。見直し時には、モニタリングと「アセスメント総括表」で再アセスメントを行い、サービス担当者会議で評価を実施し、必要時は随時、定期的に6ヶ月毎に介護計画を更新している。本人・家族等の意向や、かかりつけ医・事業所看護師・訪問看護師等の意見や指示は、サービス担当者会議前に集約し、サービス担当者会議資料として関係者別にまとめ、現状に即した介護計画を作成している。	見直し後の計画へのつながりを明確にするために、モニタリング時はサービス内容ごとの評価を記入してはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段より気づきがあれば、職員同士でも情報の共有化を図っています。介護援助計画表を使用して、情報の共有と統一に努めています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添いや、入所時の荷物の搬入のお手伝い、書類作成のお手伝い等、可能な限りでサービスを提供しています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭りや体操等地域のイベントなどにも参加して頂くよう、心掛けています。近隣の住民の方のご協力も頂けるよう、事業所からも周囲に働きかけています。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と御家族の希望を優先して、かかりつけ医を決定しています。かかりつけ医が遠方にある場合や、往診の有無等、ご家族と相談し、双方の合意を得た上で決定しています。	契約時に確認し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。協力医療機関による定期的な内科の訪問診療体制があり、訪問看護とも連携している。通院については、事業所が同行支援することが多く、職員が状況説明等を行っている。訪問看護師・訪問診療医・事業所看護師間は主にFAXで情報交換して連携し、職員間は「医療機関の受診記録」で情報共有している。状況に応じて精神科・皮膚科・歯科等の往診体制がある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問看護師と随時連携を行い、必要であればかかりつけ医にも連絡を行い、連携しています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要であれば介護サマリーを提供し、情報を提供しています。また、退院時には地域連携室の方々と連携を取って、速やかに対応しています。	入院時には管理者が同行し、「介護サマリー」等で入院先に情報提供している。入院中は面会に行き、医療連携室と連携しながら早期退院に向け支援している。把握した情報は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。また家族とも随時電話で連携している。退院前カンファレンスがあれば参加し、ユニット会議で退院後の支援方法や対応策を検討している。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、必要に応じて、介護計画を変更し事業所での支援に活かしている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段より身体状況を報告したり、事前に看取りについての話し合いを重ねています。重度化した際は改めて説明し、必要であればカンファレンスを行ない方針や対応について共有するよう努めています。	希望があれば看取りを行う方針がある。契約時に、重度化・看取りに関する指針を説明し、意向確認と同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医から状況説明を受け、管理者が事業所に対応可能な支援方針を伝え、家族の意向を「意思確認書」で確認している。家族に看取り介護の希望があれば、看取り介護計画を作成し、主治医・看護師・家族等と連携しながら支援に取り組み、経過を「介護記録」で共有している。毎年、看取りケア研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については入職時より指導しており、研修も行っています。また、事故発生時や事故になり得る状況であった時(ヒヤリ)、報告しカンファレンスを行ない、対応について話し合います。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や研修で対応を周知しています。災害時の避難場所についても周知を図るとともに、普段より近隣の方にお声をかけ、災害時に協力が得やすいように、努めています。	年2回、昼間・夜間想定火災対応、自然災害対応の避難訓練を実施している。利用者も参加し誘導方法・避難場所を確認している。訓練前に「消防訓練計画書」を、訓練後に「防災訓練報告書」を作成し、良かった点・問題点・反省点等の考察を行っている。また、市と地域の福祉避難所として協定を継続し、自治会等と協力体制を築いている。法人支給の備蓄品がリスト化され、事務所に水・レトルト食品等を3日分程度を備蓄し、法人がローリングストック管理している。	訓練内容・訓練結果の振り返り・考察等を、計画書・報告書の閲覧等により、訓練に参加出来なかった職員にも周知を図ることが望まれます。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の観点から、何気ない声掛けが相手にどの様に受け取られるかを考えるように指導しています。また、事業所内外の研修を通じて接遇についても理解を深めています。	「接遇」「認知症ケア」「職業倫理」等の研修で、人格尊重・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応等を学ぶ機会を設けている。気になる対応等があれば、「身体拘束適正化、虐待防止検討委員会」やラウンド時・全体会議を通して管理者から意識づけを行っている。個人記録類は各フロアのスタッフルームの鍵つきのロッカーで保管し、個人情報管理の適正な管理に努めている。パンフレットやホームページ掲載等の写真・映像使用については、文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決定して頂ける様な声掛けを行うようにしています。夜間でも、お話を伺います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごして頂けるように配慮して、対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で選んで頂ける方には選んで頂き、難しい方に関しては、本人に合った服装を意識しています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に関しては調理をはじめ可能な限り行なって頂いています。感謝のお声かけも欠かしません。	法人の献立表を参考にしてユニットごとに食材を発注し、各ユニットで、利用者個々の状況・病態に応じた食事形態に対応しながら手作りの食事を提供している。行事食の機会も設け、利用者がより食事を楽しめるよう工夫している。可能な利用者には残存能力を活かして、野菜カット・食器洗い等に参加できるよう支援している。外食・喫茶等の機会も設けて食事に変化を楽しめるよう工夫している。職員も同じ食事を一緒にとり、家庭的で楽しい雰囲気味わえるよう配慮している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人にあった食事形態を考え、適宜変更しています。また、チェック表等で一日のバランスを確認しています。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。ご本人で行なって頂く場合でも、見守り後、職員が不十分な箇所をケアさせて頂いています。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの自己排泄が出来るように支援しています。また、排泄パターンを記録し把握に努めています。	「排泄チェック表」で排泄状況・排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄・排泄の自立に向け支援している。夜間は安眠にも配慮し、利用者個々の状況に応じた支援を行っている。介助方法や排泄用品の使用等、支援方法について気づきがあれば、「申し送りノート」で経過を共有しながらユニット会議で検討し、現状に即した支援につなげている。可能な限り同性で介助し、誘導時の声掛け・ドアの開閉等、プライバシーへの配慮に努めている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に水分を1000CC以上飲んで頂けるよう、水分量の把握に努め、こまめに水分提供をしています。また適度な運動・マッサージを行い、自己排泄をして頂けるように支援しています。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に添えるようにしています。午前・午後や日程を変更することもあります。	週2～3回の入浴を基本とし、利用者個々の体調や気分に合わせて柔軟に対応し、「入浴チェック表」で入浴状況を把握している。一般浴槽での個浴で毎回湯を入れ替え、その人のペースで入浴できるように支援している。身体状況に応じて、シャワー浴・足浴・二人介助等で支援している。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、声かけ・タイミング・対応職員等を工夫し、同性介助の希望に応じる等、個別の配慮を行っている。ゆず湯、好みのシャンプーや入浴剤の使用等で入浴が楽しめるよう支援している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮して、臥床して頂いたり、ソファでお休み頂いたり、食事時間をずらしたりと工夫して、休息して頂けるようにしています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して、最後まで飲み終わったかの確認を怠らない様になっています。また、お薬情報をすぐに確認できるようにファイル保管し、効用などの把握に努めています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話やアセスメントを通じて本人の嗜好等を把握し、したいことをして頂けるように努めています。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外出するよう努めています。散歩に関するご家族の要望は多いですが、十分な時間を確保できない事も多く、その場合はご家族の協力も頂いています。	利用者個々のニーズに応じて、事業所周辺の散歩・買い物、喫茶・外食等に出かけ、また、少人数グループで、初詣・花見・ドライブ等季節を感じながら戸外に出かけられるよう支援している。事業所前のベンチで、花壇に咲く四季折々の草花を鑑賞する等、戸外で気分転換が図れるよう努めている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理が可能な方は、高額にならない程度で、ご自身で管理して頂いています。管理が難しい方に関しては、事業所で管理しています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の希望があれば、行なって頂いています。相手様にも出来るだけご協力頂くようお伝えしています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出しています。利用者や家族様が作成した装飾を配置したり、季節の花を花瓶に生けたり工夫しています。	事業所前の花壇にはパンジー等が植栽され、各ユニット共用空間には、利用者や家族が作成したクリスマスの装飾や季節の生花を生け、季節を感じる環境づくりを工夫している。換気・消毒も強化し、衛生的で快適に過ごせるよう取り組んでいる。テーブル席は動線に配慮して設置し、安全に過ごせるよう配慮している。利用者もキッチンでの食事づくり・洗濯ものたたみ・草むしり等への家事参加を通じて、生活感が感じられるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士でお話しされる様に、食事の座席やリビングのソファの配置に配慮しています。職員も随時お声をかけます。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族様と相談のうえ、ご自身のなじみの物を持ち込んで頂くよう、お声をかけさせて頂いています。	各居室にエアコン・ベッド・カウンター・クローゼット等が設置されている。家族の協力を得て、テレビ・椅子・机等の使い慣れた家具や、家族の写真・ぬいぐるみ・仏壇・カレンダー・アロマフィルター・加湿器等の好みのもの・大切にしているものが持ち込まれ、居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。利用者担当職員が中心となり、家族と連携しながら衣替えや環境整備を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることと出来ない事の把握に努めて、自立できるところは継続して出来るように意識しています。		